



〈雑録〉マルクス全集ノ刊行ニ就テ

福田, 徳三

(Citation)

経済學商業學國民經濟雜誌, 27(5):771-779

(Issue Date)

1919-11

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00053117>



雜 錄

マルクス全集ニ

刊行ニ就テ

法學博士 福田 徳三

此度坂西、左右田兩兄ヲ始メ同人諸君ノ援助
ノ下ニ大鑑閣書店カラ『マルクス全集』ヲ刊行
スルコトニ決定シタニ就テ、本誌ノ編輯主任カ
ラ Selbst-Anzeige ノ意味デ一文ヲ草セヨトノ
命デアツタ。小生ハ黎明錄ノ刊行ヲ好機トシテ
當分ノ間一切ノ新聞雜誌ヘ執筆セヌコトニシタ
カラ、此命令ニハ甚ダ困ツタガ、創刊以來緣故
ノ淺カラヌ本誌ノコトデアリ、且ツハ、近來學
問研究ノ名ノ下ニ、如何ハシイモノ、流行スル
世ノ中ニ、毅然トシテ、創刊以來ノ方針ヲ一貫
シテ、純研究者ノ機關タル本分ヲ渝ヘナイ本誌
ノ爲メニハ、原則ヲ打破スルコトモ、必ズシモ

不可デハナイト感ジタカラ、茲ニ短カキ一文ヲ
寄セルコト、シタ。

マルクスノ著作、就中、其ノ資本論ヲ邦譯シ
ヨウトイウ考ハ、我輩ノ寡聞ノ限リニテモ、隨
分久シイ前カラアツタヤウデアアル。早稻田大學
ノ安部（磯雄）教授ノ如キハ、恐ラク其創案者ノ
一人デアラウトノコトデアアル。然シ其後同教授
ハ、如何ノ計劃ヲ立テ、居ラル、カ、不幸ニシ
テ聞ク所ハナイ。而シテ近年ニ至ツテハ、河上
博士ガ邦譯ヲ企テラレタ由ハ、岩波書店主人カ
ラ傳聞シテ居ル。其後博士ハ、當初ノ案ヲ更ヘ
テ、其一人雜誌ヲ發行スルコトニセラレタノダ
ソウデ、岩波主人ハ其ヲ今ニ甚ダ残念ナリト公
言シツ、アル。而シテ同主人ハ誰カ然ル可キ人
ニ、資本論邦譯ヲ頼ミ度イモノデアアルガトノ相
談ヲ我輩ニカケラレタコトガアルガ、其時我輩
ハ、其ハ、高島素之氏ガ適任デアラウ、然シ唯
一人デハ、進行ガ案ゼラレルカラ、誰カ一二人

其勞者ヲ加ヘタラ宜カラウト答ヘタ。然シ岩波氏ハ、社會主義者ノ執筆デハトテ、其話ハ其儘ニナツテ仕舞ツタ。

實ヲ云ヘバ、我輩ガ資本論邦譯ヲ企テタノハ明治三十八九年ノ頃デ、其出版者タル漢堡ノマイスナー書店ヘハ、書留書狀ヲ以テ、邦譯許可ノコトヲ照會シタコト、前後三四回デアルガ、何故カ、一度モ回答ニ接セナカツタ。他ノ書物ニ就テハ、邦譯ノ許可ヲ求メテ返事ニ接セナカツタコトハ、今日マデ一度モナイ、獨リ資本論ノ場合ノミ、我輩ノ願ハ全ク顧ミラレナカツタノデアル。故ニ、我輩ハ、其以後邦譯ノコトハ全ク斷念シテ仕舞ツタノデアル。

然ルニ、近頃内務省ニ就テ、面家莊儒氏(大鐙閣専務取締役兼支配人)ガ確メタ所ニヨルト獨逸書ノ邦譯ニ就イテ、別ニ版權問題ノ面倒ハナイ、原出版者ノ承諾ナクトモ、其出版ハ差支ナシト思フトノ返事デアッタソウデアル。元ヨ

リ學者トシテノ德義上カラ云ヘバ、法律問題ヲ離レテ一應許可ヲ得テ置キタイノデアルガ、今日ノ場合其レハ事實不可能デアル。此點ハ甚ダ残念デハアルガ、兎ニ角右ノ言明ニ安心シテ、邦譯出版ニ着手シ、獨逸トノ郵便ガ開始セラレルヤウニナツタラ、大鐙閣カラ夫々手續ヲ盡クシテ貰フコト、シテ、茲ニ全集刊行ニ決シタノデアル。

大鐙閣ハ餘程以前カラ、マルクス全集刊行ノコトヲ企テ、居ツテ、屢々我輩ニ其申出ガアツタガ、高島素之君ハ、獨力デ賣文社カラ資本論ヲ刊行スルコト、シテ、新聞ニモ廣告セラレテ居ルカラ、遠慮シテ居ツタ。一ツ書物ニ就テ諸々方々カラ邦譯ガ出ルト云フコトハ、無駄ナコトデモアリ、殊ニ高島君ニ取ツテハ、資本論邦譯ハ、殆ンド生命懸ケノ決心ヲ以テ取カ、ツテ居ルコトデ、其事情ヲ熟知シ乍ラ、此ト競争ノ地位ニ立ツ可キモノヲ、出スト云フコトハ、高

畠君ノ友人ノ一人トシテ、我輩ノ敢テシ得ザル所デアル。殊ニ高島君ニ資本論邦譯ノ決心ヲ定メシム可ク、極力慫慂シタノハ我輩デアルカラ其點カラモ、高島君ノ仕事ノ完成ニ出來ル丈ケ力ヲ藉ス可キデアル。

所ガ甚ダ幸ニモ、高島君ハ、大鑑閣ノ計劃ヲ聞イテ種々勘考セラレタ結果、賣文社刊行既定ノ計劃全部ヲ擧ゲテ、大鑑閣ノ計劃ニ參加シ、自ラ資本論邦譯ヲ責任ヲ以ツテ擔當シテモ宜イト申出デラレ、且ツ我輩ニモ其意ヲ通ゼラレタ高島君トシテノ立場カラハ、今資本論邦譯ヲ賣文社カラ刊行スルコトハ、精神的會心ニ加フルニ、物質的ニモ成算ノアツタ所デアラウシ、又賣文社同人ニ取ツテモ、此書ヲ出版スルト云フコトハ、主義主張ノ上カラ其社ノ爲メニ甚ダ結構ナコトタル可キハ疑ヲ容レナイ。然ルニ、其計劃ヲ全部我々ノ計劃ニ合同スト提議セラレタノハ、同君ノ心事ノ高潔ヲ物語ツテ十分ナル

モノガアルト信ズルシ、賣文社同人ノ雅量ニ對シテモ、我輩ハ滿腔ノ敬意ヲ禁ズル能ハザルモノデアル。而シテ其レハ畢竟此計劃ノ當事者タル面家莊悟氏ノ熱心ノ結果デアルコトハ、言フマデモナイ。我輩ハ、斯クノ如クニ *selfish* ナル兩君ヲ、先ヅ事ノ始メニ見出シタコトヲ、深く感謝セズシテ措ク能ハザルモノデアル。日本經濟叢書ニ於ケル佐藤卯兵衛君ト云ヒ、マルクス全集ニ於ケル面家君ト云ヒ、エナノドクトルグスターフ・フィッシャーヲ思出サシメル。フィッシャー君ハ、有名ナコンラツド年報、コンラツド大辭典其他澤山ノ經濟書ノ出版ヲ以テ、恐ラク同學諸君一人トシテ知ラザルナキ出版業者デアルガ、同氏ノコンラツド教授、故ヒルデブランド教授始メ、シユモラー、ブレンタノ以下ノ諸學者ニ於ケル關係ハ、實ニ永ク傳フ可キ美談ヲ以テ充サレテ居ルノデアル。

斯クノ如ク今度ノマルクス全集ノ起リハ、一

ニ全ク高島君ノ資本論邦譯ノ大決心ニ存スル。故ニ我々ハ飽迄、高島君ヲ助ケテ、其志ヲ大成セシメント決心スルモノデアル。高島君ハ、今日デハ日本社會主義者中堺、山川兩氏ト相並ンデ有名ナ人デハアルガ、其學問上ノ造詣ノ深ク殊ニ其語學ノ素養ノ博大ナコトハ、從來ハ餘リ世人ニ知ラレテ居ナカツタ。我輩ハ、七八年以前堺氏ガ態々氏ヲ同伴來訪セラレタトキカラ、氏ノ學問ノ容易ナラザルモノアルニ深ク敬畏ノ念ヲ抱イテ居ルモノデ、從ツテ、主義ノ爲メニ獻身のニ、マルクス翻譯ニ從事ス可キ人ハ、同君ヲ措イテ他ニ多ク求ム可カラズト考ヘ、數年前ヨリ氏自ラニ對シ、又タ堺利彦君ヲ介シテ、是非資本論邦譯ノ決心ヲ定ムルヤウ、絶エズ勸説シツ、アツタノデアル。而シテ氏ハ自ラ深ク考慮ヲ重ネタ結果、此ノ大決心ヲ固メラレタノデアル。而シテ氏ノ手許ニ於ケル邦譯ノ草稿ハ今ニ於テハ、餘程進行シテ居ルノデ、其内數百

頁ハ既ニ植字ヲ終ツテ、現ニ我輩ノ手許ニアルノデアル。

サテ資本論ニ就テハ、其人ヲ得タガ、全集ト稱スル以上、餘剩價值學說史論、經濟學批判、哲學ノ窮乏以下ノ諸著ハ必ズ收録セネバナラス。是ニ就テハ、殆ンド何等ノ案ナク、其爲メ數ヶ月ヲ空シク過シタノデアル。然ルニ、此事ヲ聞及バレタ坂西教授ハ、先ヅ非常ノ贊意ヲ表セラレ、自ラ進ンデ翻譯分擔者ノ一人タランコトヲ諾セラレタ。是レ我輩ニ取ツテ、實ニ暗夜ノ明燈ヲ與ヘラレタモノデアル。此ノ明燈ニ激勵セラレテ、我輩ハ大イニ力ヲ得、更ラニ寺尾教授ニ相談ヲカケタ。教授ハ一言ノ下ニ快諾セラレ、而シテ、坂西君ト相近ク住ムノ故ヲ以ツテ、資本論ト其困難相均シキ餘剩價值學說史論ノ翻譯ヲ、坂西教授ト二人ニテ引受ク可キ議ニ同意セラレテ、其レニ確定シタ。即チ二君ノ内一人ハ、其第一卷リカルド以前ト、第四卷リカ

ルド以後トヲ擔當セラレ、一人ハ第二、三卷リ
カルドノ餘剩價值說ノ部ヲ譯出セラル、コト、
ナツタ。

右マデ決定ハシタガ、サテ右二書以外ノ邦譯
擔任者ヲ得ルコトハ、又タ一ノ困難ナル仕事デ
アツタ。相談ヲカケタ諸君ノ中ニハ、初メカラ
周辭セラレタ方モアリ、初メハ大分意ガ動イテ
居タガ、中途ニナツテ斷ハレタ方モアツタ。無
論河上博士ニモ御加入ヲ願ツタガ、コレハ博士
ノマルクスニ對スル立場ガ、福田ノ彼ニ對スル
立場ト全然異ルカラトノ理由デ、固ク辭サレタ。
小泉信三君ニモ願ツテ見タガ、同君ハ年來ノ宿
痼未ダ心ヲ安ジ難ク、且ツ其他ニモ事情アルガ
爲メニ辭退サレタ。森戸辰男君ニモ加入ヲ乞フ
タガ、同君留學發程前多忙ノ爲メニ、終ニ豫期シ
タ快諾ガ得ラレナカツタ。

然ルニ捨ツル神アレバ拾フ神アリデ、初メハ
立場ノ相違上到底承諾ヲ得難シト思ツテ、別ニ

加入ヲ求メナカツタ我左右田博士ハ、右ノ如ク
我輩ト坂西教授トガ困ツテ居ル實情ヲ見ラレテ
（此計劃ノ事、及び其進行ハ初メカラ博士ニハ、
粗ボ話シテハ置イタノデアル）然ラバ、自分モ
翻譯者ノ一人タラント進ンデ發言セラレタノ
ハ、兩人共實ニ驚喜措ク能ハザリシ次第デアル。
博士ハ、日本經濟叢書ニ就テモ、精神的ノミナ
ラズ財政的ニモ、其計劃ヲ援助セラレタガ、今
又マルクス全集ニ就テモ、殆ンド最後ノ瞬間ニ
於テ、其決定ヲ促ス可キ「キアスチング・ヴォー
ト」ヲ投ゼラレタノデアル。博士ハ坂西教授ヤ
我輩ト同ジク、マルクス全信者デナイハ勿論、
哲學上ニ於テハ、殆ンド全クマルクス否定ノ立
場ニ居ル人タルコトハ、人ノ知ル如クデアル。
マルクスストノ距離ハ、高島君最モ彼ニ近イガ、
我輩ヨリ坂西君ヲ經テ左右田君ニ至ルニ從ヒ漸
次ニ遠ザカリ、左右田君ニ於テハマルクスストノ
距離最モ遠イモノデアル。然ルニ一ニハ學問ノ

爲メニハ我々ヲ助クル爲メ、立場ノ爾ク異ルマルクスノ爲メニ、譯筆ヲ取ル可ク、快諾セラレタノデアル。

左右田博士ノ分擔快諾ト共ニ、資本論、餘剩價值學說史論二書以外ノ諸著述ノ分類ト邦譯分擔トニ就テ、坂西、左右田、寺尾三君ト種々討論協議シタ結果、全體ヲ『批判諸篇』kritische Schriftenト『主張諸篇』positive Schriftenトヘニ部ニ分ツコトニ定マツタ。批判諸篇ニ入ル可キ豫定書ハ粗ボ左ノ通り

- (一) 經濟學批判
- (二) 哲學ノ窮乏
- (三) 神聖家族
- (四) 佛蘭西階級戰爭
- (五) 革命ト反革命
- (六) 「ヘーゲル」法理哲學ノ批判
- (七) 道德批判ト批判道德
- (八) 歷史法學派ノ哲學宣言

(九) 「デモクリット」及「エピクラー」哲學ノ比較

而シテ之ヲ第三部ト名ケ、其翻譯擔任者ハ左右田博士ト博士ニ就テ長ク經濟哲學ヲ專攻セラレタ金子教授トニ定マリ、第四部ノ主張諸篇ハ

- (一) 價值、價格及利潤
- (二) 賃銀勞動ト資本
- (三) 路易奈翁
- (四) 猶太人問題
- (五) 自由貿易論
- (六) 共產宣言

ト畧定シ、之レハ大塚教授ト我輩トニ於テ擔任譯出スルコト、シタ。但シ我輩ハ此ノ外ニ第一部ノ資本論ノ第三卷ヲ引受クルコト、ナツタ。是レハ高島君ノ希望モアリ、且又我輩モ進ンデ試ミタイカラデアルガ、主タル理由ハ、全集ノ進行ヲ可成早クシタイカラ、斯ク分割スルコトニシタノデアル。

此レデ、役割ハ大體定マツタ。元ヨリ進行ノ都合上三部ト四部トニ就テハ、既定以外ノ翻譯者ヲ求メル必要モ起ラウ。其レニ就テハ、既ニ内諾ヲ與ヘラレタ方ガ四五人ハアル。何レモ刊行ノ際ハ、實際ノ執筆者一々名ヲ公ケニ署シテ責任ノ所在ヲ明カニス可キハ無論デアル。決シテ無責任ナ事ヲ致サヌコトハ、茲ニ言明シテ置ク。且又我輩ハ、微力ノ及ブ限り、全部ヲ原稿ナリ、校正刷ナリニ就テ通讀シテ、校註ヲ加ヘ出來ル丈ケ、全體ニ涉ツテ連絡ト統一トヲ圖ル所存デアル。從ツテ我輩ハ當分ハ、國民經濟講話ノ續稿以外、一切ノ文筆の餘力ヲ此全集ノ爲メニ捧グ可ク、新聞雜誌等ヘノ寄稿ハ、(マルクス全集關係ノモノヲ除イテ)一切之ヲ廢スル考デアル。

終リニ索引ノコトヲ一言スルヲ許サレタイ。マルクス原著資本論ニハ、索引ハ載セテナイ。

此ハ我々ガ常ニ甚ダ困難ヲ感ズル點デアル。幸

ニ英譯資本論ニハ索引ガ附イテ居ルガ、佛譯ニハ無イ。餘剩價值學說史論ニハ、簡單ナ人名索引丈ケシカ添ヘテナイ。何レモ學者ノ不便甚シイモノデアル。故ニ此全集ニハ、全體ヲ通ジテ是非件名、人名ノ出來ル丈ケ十分ナ索引ヲ附ケタイトハ、始カラ考ヘテ居ル所デアル。シカシ、之ガ中々ノ大事業デアル。日本經濟叢書ノ索引モ未ダ完成シテ居ラヌ、之レニ就テハ故内田博士ハ元ヨリ、瀧本博士、河上博士、並ニ我輩ハ、尠カラヌ苦心ヲ重ネテ居ルノデアル。此索引ハ一頁ニツキ四五語平均ヲ檢出シ既ニ第三十四卷マデハ高野彌吉氏ノ檢出シタモノヲ、「カード」目錄ニシタモノガ無慮數萬枚出來上ツテ居ルサウデアル。然シ最モ困難ナルハ、檢出語ノ分類デアツテ、コレハ未ダ着手シテ居ラヌ。出來ナイカラデアル。高野君ハ隨分勉強シタヤウデアルガ、内容ノ困難ナル爲メ、分類ニ至ツテ行惱トナツテ居ル。我輩ハ、此事情ヲ熟知シテ居ル

カラ、マルクス全集ニ就テハ、初メカラ面家氏ニ、其ガ是非必要ナルヲ、然シ仕事ハ甚ダ困難デアツテ、誰デモヤレル底ノモノデナイコト、從ツテ此レガ爲メニ其道ノ第一人者ヲ得ルノ必要ナルコトヲ懇ニ語ツテ、十分ノ諒解ヲ得テ居ル。依ツテ東京帝國大學圖書館長和田文學博士及比田中帝國圖書館長ニ諮ツタ結果、圖書學ノ權威タル帝國圖書館副館長村島文學士ヲ煩ハスコト、シテ快諾ヲ得タノハ吾々ノ深ク感謝スル所デアル。乃チ大鑑閣豫算ノ許ス限りノ最高ノ犠牲ヲ以テ、索引ノ作成ヲ學士ニ願ヒ之ヲ別卷トシテ刊行スルコトニシタ。

以上ガ全集刊行決定ニ至ルマデノ經過ノ大要デアル。學問上何故全集ノ刊行ガ今ノ時ニ於テ必要ト我々ガ信ズルカノ説明ニ就テハ、何レ後日機會ガアツタラ、再ビ蕪筆ヲ呵シテ、本誌ノ讀者ニ見ユルカモ知レナイ。又タマルクスノ著

述史大要ハ、高島君ノ筆ニ成ツタモノガ、既ニ脱稿シアリテ、コレハ全集內容解説トシテ、大鑑閣ニ於テ出版スルコトニナツテ居ル。猶ホ河上博士ノ社會問題研究ハ本誌ノ讀者モ大抵購讀シテ居ラル、ト信ズル、マルクスノ著作ノ重要ニ就テ學バントセラル、讀者ハ須ラク右誌ヲ熟讀セラレンコトヲ此機會ニ於テ切望シテ置ク。

追記

マルクス全集刊行ノコトヲ傳聞セラレテ、激勵ノ言ヲ寄セラレタ先覺、同學妙カラズアル内ニ、特ニ穗積老博士ハ、溫情ニ充チタ獎勵ノ手書ヲ賜ツタコトハ、茲ニ特筆シタイ所デアル。而シテ老博士ノ教ヘラル、所ニヨレバ東京帝國大學圖書館ニハ、マルクス自筆ノWidmungヲ載セタ資本論(第一卷ナル可シ)ガ所藏セラレテアルサウデアル。此ハ今ヨリ二十有餘年ノ昔、即チ我々ガマルクスノ名ヲ

聞キ傳ヘタカ傳ヘヌカノ頃、老博士ガ、一讀
セラレタ書物デアルサウデアアル。博士ノ學問
ノ博ク深キ、其ノ由來遠シト云フ可ク、我輩
ハ、敬慕ノ念ヲ禁ジ能ハヌモノデアアル。

（神嘗祭日認ム）